

中学校 1 年

ケニアでは茶の生産量が多いのに消費量が少ないのはなぜか？

和泉市立槇尾中学校

教科

社会

単元名

アフリカ州

本単元で育む主な情報活用能力

C-STEP 4, K-STEP 4
P-STEP 4, H-STEP 4

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



単元でつきたい力（ステップシートの項目）

（教科等でつきたい力）

- ・課題に対して地域的特色と関連付けて多面的・多角的に表現する。
 - ・アフリカ州の地域的特色をとらえて理解する。
- （学校図書館等の活用でつきたい力）
- ・図書資料を利用して情報を収集・活用する。
 - ・A I で先行探究した内容をファクトフルネスの観点から図書資料を活用する。

単元における学習の展開（全 6 時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第 1 次 (2 時間)	【導入①】 ・課題とポートフォリオによる単元の流れの確認をする。 ・課題に対し、必要な知識は何かを探り、AI を使って課題に迫る仮説を立てる。 【導入②】 ・仮説に対して図書資料を使って、情報の精査を行い課題に迫る様々な観点から検討する。(☆) (本時)
第 2 次 (3 時間)	【展開】 ○各課題に対して授業を展開し、それぞれの課題に対する省察を実施する。 ・食料問題が深刻化している原因を自然環境と人口の特色から考える。 ・ガーナは食料不足なのに、なぜカカオ豆だけを作るのかに着目し、歴史的要因を踏まえて説明する。 ・アフリカの自立や発展のために、どのような取組みが行われているか考える。
第 3 次 (1 時間)	【まとめ】 ○他者の発表や意見から 1 つの課題に対して多角的に考え、取り組むことを理解する。 ・アフリカ経済圏についての自分の考えや根拠を立てて発表を行う。 ・アフリカ州と日本の未来を考え、持続可能な発展を考える。 ・課題に対して収集した情報を活用し、結論づける。

本時のねらい

- 仮説に対して図書資料を使って、情報の精査を行い課題に迫る様々な観点から検討する。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (5 分)	1. 本単元の確認をする（課題の再認識） ・ポートフォリオによる前時の振り返りをおこなう。 ・ワークシートで本時の調べる内容と課題までの道筋を確認する。	・個人で課題へ迫るために必要な知識が違うので一人ひとりに再確認させる。
展開 (40 分)	2. メディアセンターを利用し事実から知識を獲得する ・各班で協力しながら必要な図書資料を選ぶ。 ・ワークシートに必要な知識をメモする。 3. 情報と知識を共有する ・それぞれの班員と知りえた情報と知識を共有し、検討する。	・それぞれが求める知識が無限に広がるため、図書資料を絞り込むのが難しい分類やジャンルがある場合は、違った視点から探し直すことも意識させる。 ・ポートフォリオから事前に生徒の調べるものをリサーチし、図書資料の提示・配架方法などを工夫する。
まとめ (5 分)	4. 課題に対して再度仮説を立てる ・本時で得た知識を活かして、再度仮説を立てる。	・どの図書資料のどの知識を根拠にしているか明確にさせる。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

【授業づくりについて】

- 授業は PBL（問題解決型学習）にベースを置き、単元を通してどのような力を身に付けさせたいのか、という視点でデザインをしている。本単元では「ケニアでは茶の生産量が世界の 3 位に入るのに消費量は 5 位に入らない」を使った。
- 課題の解決には、様々な角度からアプローチすることができる。それぞれが必要な知識を獲得し、考察できるように、毎授業でポートフォリオを活用して省察すること「なぜ？」を生徒に問い続ける。

【司書教諭と連携について】

- 単元ごとに必要な図書資料を事前に打ち合わせし、生徒に必要な情報を揃えられるように連携をとっている。



メディアセンターを利用し、探究している姿